

インクルーシブな医療に向けて —実践・研究の課題を考える—

日時：2016年3月10日（木）14時～18時

開催場所：立命館大学(衣笠キャンパス)

創思館2階 多文化臨床ラボ

定員：30名 ***事前参加登録が必要です***

参加申し込み先：mestra.transis@gmail.com

【プログラム】

14:00 開会のご挨拶・趣旨説明 松田亮三(立命館大学)

1. 招待講演

「米国のセーフティネット医療供給者」

Peter Shin, Ph.D., M.P.H.

(George Washington University)

●発表：英語(通訳がつきます)



Peter Shin, Ph.D., M.P.H.

ジョージワシントン大学健康政策部の准教授であり、Geiger Gibson Program (GGP)の責任者を務めている。セーフティ・ネットの資金供給や経済的影響、低所得者、季節労働者、民族的マイリティーに対する地域健康センター(Community Health Centers)の取り組み等を研究している。

2. 「支える医療」共同研究プロジェクト調査報告

福田茉莉(立命館大学)・松田亮三(立命館大学)

3. パネル・ディスカッション

「社会排除・貧困・困難に直面している患者・住民に

医療機関はどう関わるべきか、また、どう関われるのか？」

パネリスト：高山一夫(京都橘大学)・垣田裕介(大分大学)

長友薫輝(津市立三重短期大学)・松島京(近大姫路大学)

石橋修・是澤雅代(京都民医連第二中央病院)

主催：科学研究費インクルーシブ医療研究プロジェクト（「社会包摂的医療に向けたアクション研究：「語り」にもとづく実践と政策形成」研究課題番号：25590148）

共催：立命館大学人間科学研究所・インクルーシブ社会に向けた支援の〈学＝実〉連環型研究・方法論チーム

共催：「支える医療」共同プロジェクト検討会